



(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター理事長賞

講評： 都市部からは大分離れた集落における古民家改修である。もともと茅葺き屋根であった主屋は、既に金属板で覆われてしまっているが、堂々たる質感と量感は、手前の長屋門と共に十分に往時を想像できる。この作品は、その主屋に下屋を加えることによって、五十歳代の夫婦のため、現代生活に見合う空間に組み直したものである。

この作品は、門をくぐった時から何とも言えない魅力が感じられる。来客は自然に下屋前のデッキに近付いてしまう。下屋部分は、閉鎖性の強い主屋を切り開いた爽快感がある。対比デザインの手法はよく見られるものだが、けれん味のない構成が、小気味良いスケール感を与えていて心地良い。内部に入って、この空間に逃れたようにぴったりと収まっている大きなテーブル(リフォーム以前から使っているとのこと)の前に座ると、山々や空が程良く目に入り、心底ゆったりとしてしまう。リフォームに際して御夫婦は、基本的には昔風の生活の快適さを変えたくない、という条件を付けているのだが、土間に置かれた薪ストーブなどは素晴らしい点景の一つになっている。下屋からキッチンへとつながる内部空間のくびれかたは自然で、水回りとの回遊動線も機能的で抵抗感がない。浴槽は、一見既製品に見えるが、職人を探して造らせた現代五衛門風呂である。薪をくべる焚き口回りも昔のイメージで設えられている。いくつかのトップライトから射す光は、室内を単に明るくしているだけではない。ここで営まれる生活そのものを美しく浮かび上がらせている。内側からは、空の色や梢の先々、星空など、自然環境の動きをはっきり意識できる。多少不便でも、昔からの住まいかたの方が美しく自然である、静かで落ち着いた住まいとは本来こういうものではなかったか…上方からの

静かな光はそんなことを考えさせる。

この作品は、都市でも過疎地でもない、半地方とでも呼ぶべき地域において、団塊の世代の、一つの豊かな生活が具現化したものと言える。設計者は施主と友人であり、同世代である。信頼感に基づいて同時代感覚が幸福に結晶し、「高齢社会における日本の住まい」と呼べそうな原形空間のひとつに昇華した、といったらほめ過ぎかもしれないが、今後、このような在り方は確実に増えて行くのではなかろうか。リフォームがそんな暮らしを生む原動力になっていれば素直に喜びたい。その力強い実感(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター理事長賞に値するものである。



リフォーム前後の写真



Ⓐ

リフォーム前

Ⓑ

①



②



③



⑤



④



⑥

リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

大阪北摂に位置する、周囲を杉に囲まれた集落で、代々続いてきた暮らし方は変えずに、もう少し明るく、人を招きやすしたいとの要望でリフォームの計画が始まった。

施主は50代のご夫婦。立派な茅葺き屋根部分は残し、下屋部分のみ手を加えて、奥にあったダイニングを景色のよい場所に移動した。少しでも奥まで光を取り入れようと設けたトップライトからは、思いがけず老木の枝ぶりが楽しめてよいプレゼントになった。

リフォーム後も薪をくべてお風呂を沸かしたいとのこと直焚き用の浴槽と焚き口も設けた。新興住宅地では問題になりがちな防犯もここでは笑い話、どこからでも誰でも、千客万来の創りになっている。リフォーム後に法事をされたとき、親族の皆さんがとても喜んでくださったとのこと、今までは隠れていた黒光りした立派な梁を現わしたのが効果を生んだようだ。ススだらけの梁を皆で全身真っ黒になりながら掃除したのも良い思い出である。

特に配慮した住宅性能：薪ストーブや直焚き用の浴槽を導入し、電気・ガスなどのエネルギー消費をできるだけ抑える形とした。また家族の集まるスペースを南側に配置し、家事動線を整理することも、省エネルギー化を図っている。

データ

所在地	大阪府豊能郡豊能町	構造/築後年数	在来木造/約200年
該当工事面積	66.33 m ² /総工事床面積 66.33 m ²	該当部分工事費	1,300 万円/総工事費 1,300 万円
居住者構成	15歳以上65歳未満：2人/65歳以上：人/15歳未満：人/ペット：小型犬1匹		
設計者	広渡建築設計事務所	担当者	広渡 孝一郎
施工者	(株)中野工務店	担当者	中野 雄一

リフォーム前

リフォーム後

